

6、ヘルシンキ中央図書館



6、ヘルシンキ中央図書館ー1

【天井が吹き抜けで解放感がある】



【1階フロアー】



【学習室PC設置】



【学習室】



【ジグソーパズル】



6、ヘルシンキ中央図書館－2

【人の一生を本で表現】



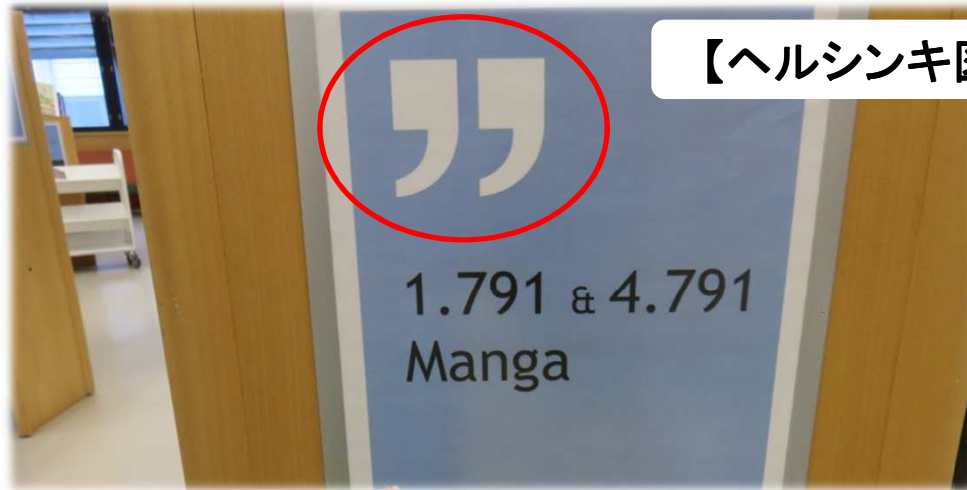
【2階に整備されたICTスペース】



【1階フロアの休憩スペース】



6、ヘルシンキ中央図書館ー3



【ヘルシンキ図書館のロゴマーク】



【貸し出し用DVD】



【貸し出し用CD】

6、ヘルシンキ中央図書館ー4

【雑誌コーナー】



【図書館内には喫食コーナー】



【日本語の書籍類】



6、ヘルシンキ中央図書館ー5

【児童図書コーナー】



【日本のマンガ本】



【児童の休憩スペース】



【子ども用パズル】



6、ヘルシンキ中央図書館ー6



本の貸出し、返却は全てシステム化され効率が図られている。

6、ヘルシンキ中央図書館ー7

【職員の事務スペース】



【新書は中央図書館から分館へ割り当て】



【閉架書庫】



【閉架書庫】



蔵書数：開架図書数18万冊、閉架図書数25万冊

6、ヘルシンキ中央図書館－8

【貸出し用の本の自動仕分け】



【配送先に自動で仕分け】



【ヘルシンキ市図書館のICTを管轄】



【バスの時刻表サービス】



6、ヘルシンキ中央図書館ー9

【移動図書用の大型バス】



【バス内には多くの本を完備】



6、ヘルシンキ中央図書館－10

【各図書館へ貸し出され返却された本】



7、Library 10 図書館

【図書館とスーパーが同じ建物にある】



【図書館は2階に】



【カリ ラムサ館長から説明】



【開館時間は平日8時～22時】



7、Library10図書館－1

【リラックスしながら読書】



【心地よい音楽と光】



【タブレットの貸出し機】



【電子新聞で日本の新聞も】



7、Library10図書館－2

【図書館サービス】ヘルシンキ駅前にあり利用者も多い

【1フロアーの図書館】



【雑誌コーナー】



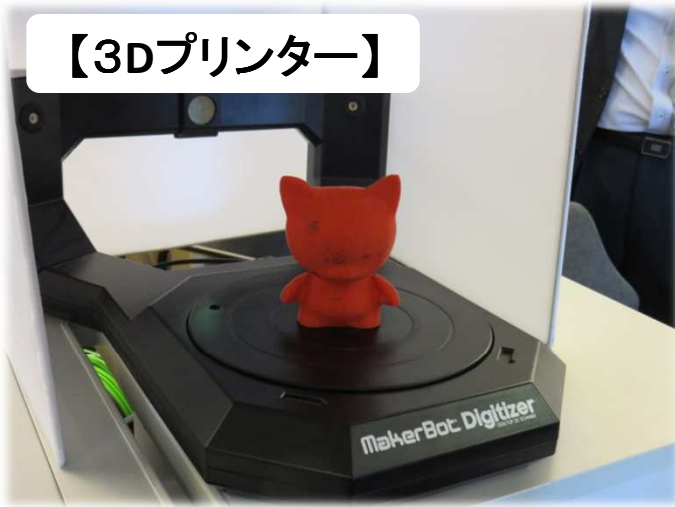
【音楽も演奏できる】



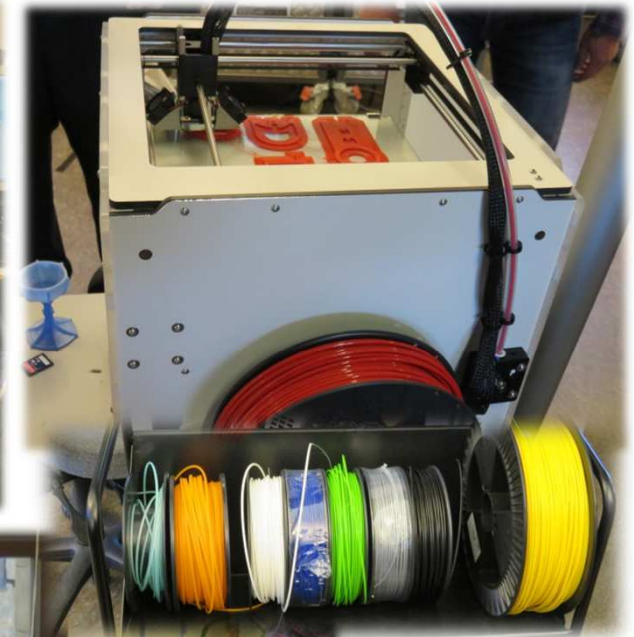
7、Library10図書館－3

【図書館サービス】基本的には材料費だけで使用可能

【3Dプリンター】



【アイデアが形に】



【オリジナルTシャツが作れる】

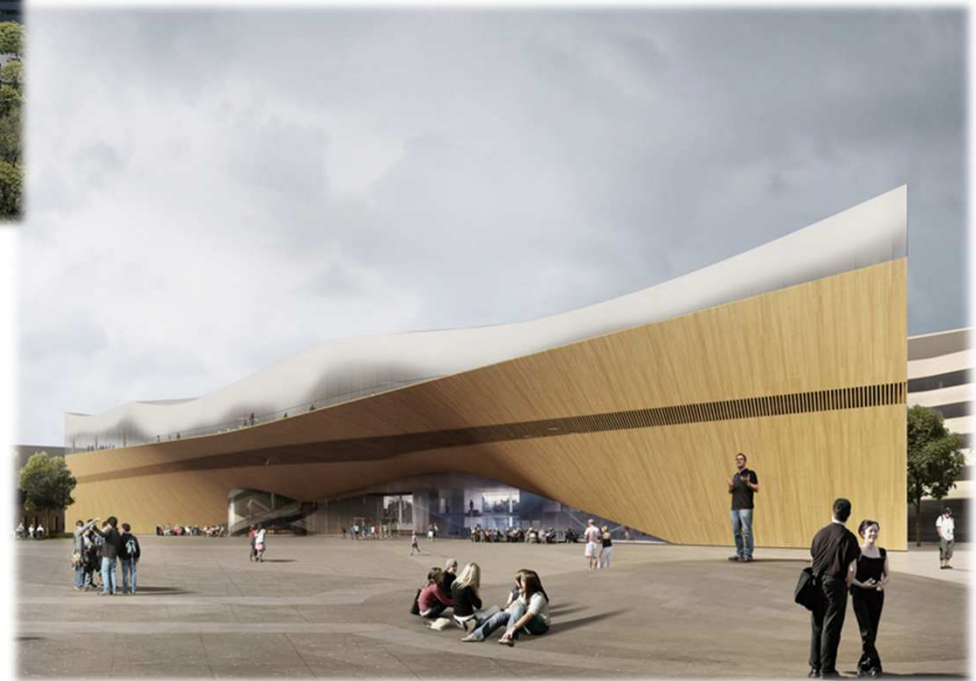


8、ヘルシンキ新中央図書館



フィンランドのヘルシンキ中央駅から少し北西の位置、文化施設が多いこの場所に、2018年 ヘルシンキ中央図書館(Helsinki Central Library)がオープンする予定です

新中央図書館はヘルシンキの心臓部に床面積16000平方メートルの規模で建築される。スティーブン・ホールによるキアズマ現代美術館、アルヴァ・アアルトによるフィンランディアホール、エリエル・サーリネンによる中央駅など、重要な公共建築に囲まれたエリア



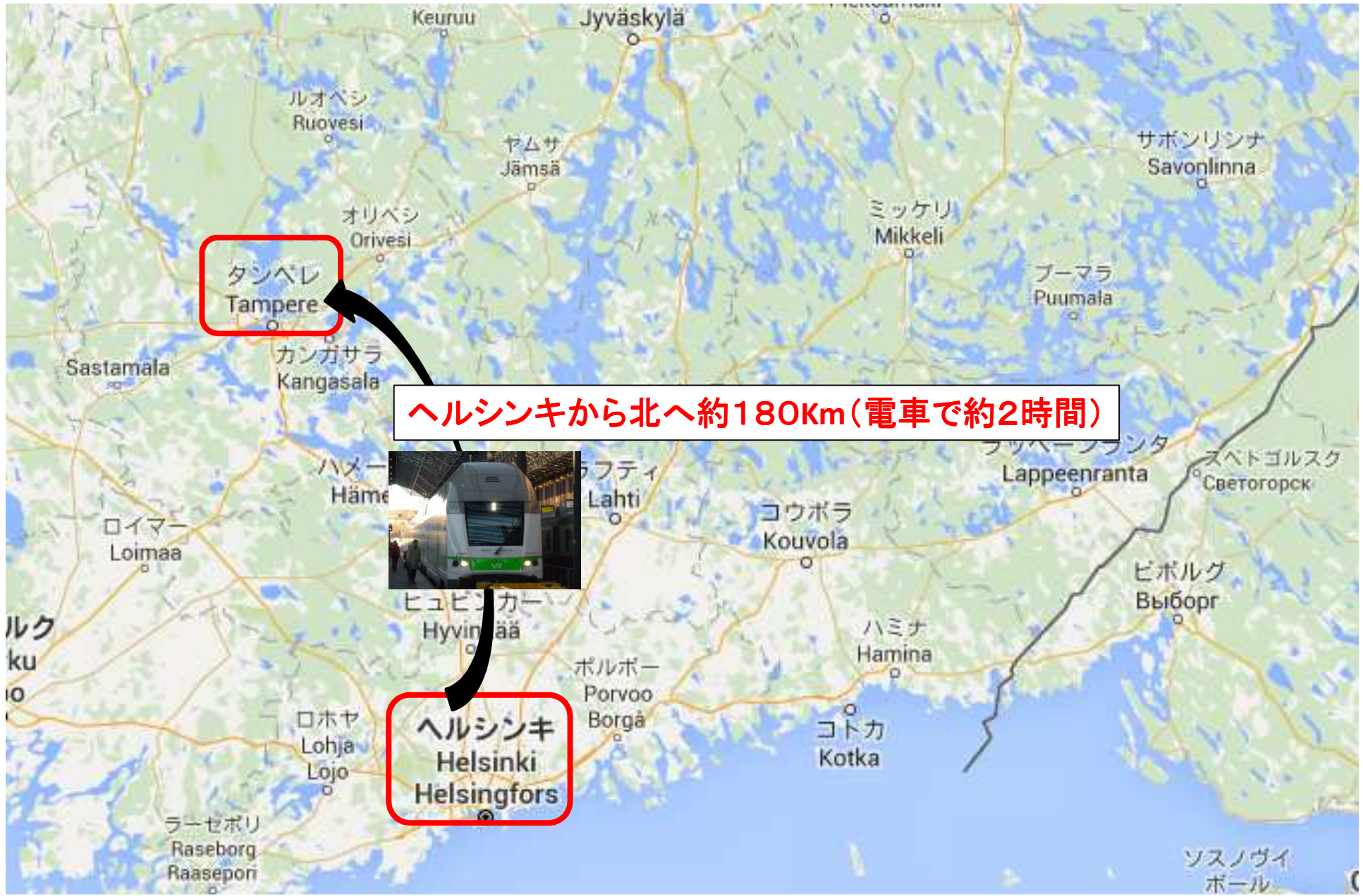
画像は<http://www.ma-che-rie.com/helsinki-city-library/>より引用

8、ヘルシンキ新中央図書館－1



画像は<http://www.ma-che-rie.com/helsinki-city-library/>より引用

9、タンペレの概要



タンペレ
Tampere

ヘルシンキから北へ約180Km(電車で約2時間)



ヘルシンキ
Helsinki
Helsingfors

9、タンペレの概要ー1



【水力発電所】

9、タンペレの概要-2

【タンペレ駅】



【タンペレ市駅前通り】



【バスターミナル】



【市街地の道路は石畳が多い】



10、タンペレ市中央図書館

【雷鳥をモチーフにしたデザイン】



雷鳥

主任マーリト ヘレン氏

10、タンペレ市中央図書館－1

【館長室から開架室を見下ろす】



【1階メインホール】



【自動返却機】



【2階には音楽ができる部屋がある】



10、タンペレ市中央図書館－2

【入口ホール】

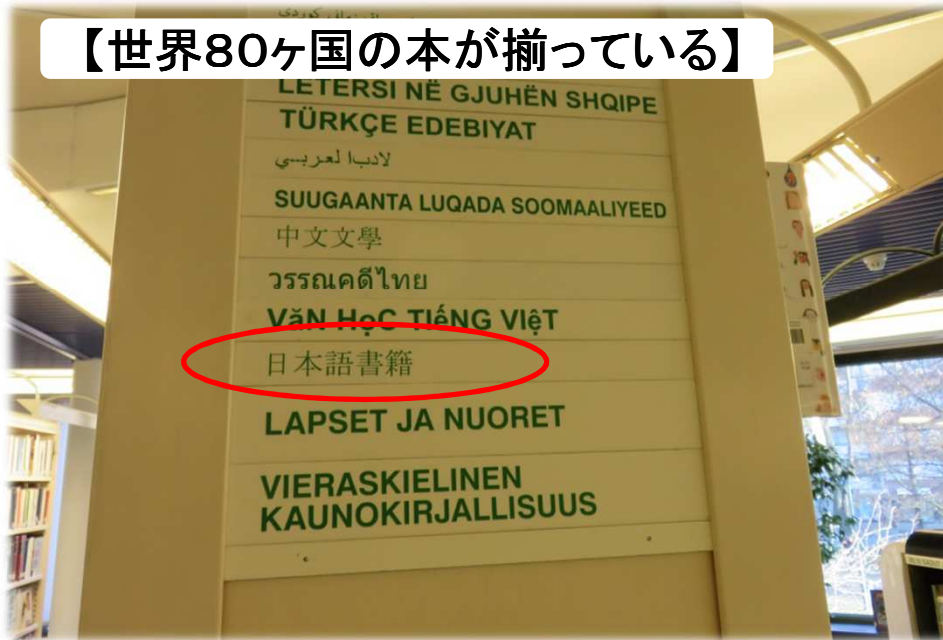


【集会室をワーキングスペースとして活用】



10、タンペレ市中央図書館－3

【世界80ヶ国の本が揃っている】



【犬と一緒に読み聞かせ】



【日本のマンガナルト】



【日本語の書籍類】



10、タンペレ市中央図書館－4

【ゆったりした休憩スペース】



【PC完備】



【雑誌コーナー】



【ジグソーパズル】



図書館サービス事情調査の振り返り(まとめ)

■読書を愛するフィンランド人

・フィンランドの図書館法で、全ての国民は図書館の利用の権利があることが明記され、世界の中でも読書を趣味とする国民の数が多く、図書館の利用率は世界一と言われ(国民1人当たりの年間貸し出し冊数は21冊)、小さい頃から家族と本を読む習慣があり、図書館数も多いと言う背景があった。

■中央図書館サービス

・ヘルシンキの図書館は37か所あり、近隣の4自治体を合わせると60か所の図書館で100万人をカバーしている。また、ヘルシンキの中央図書館は国から予算をもらい、サービスの発信を行っている。このサービスを改善することで、全国の図書館サービスの改善につなげている。

■攻めの図書館サービスへ

・利用者のニーズに合わせたサービスの試みを行っており、安城市が建設中の(仮称)図書情報館にも反映すべき点の参考となった。

図書館サービス事情調査の振り返り(提言)

消費税の税率など社会機能の違いを考慮の上で次の提言をします。

- ・利用者ニーズに合わせ、開館時間の延長や夜間の無人図書館のあり方についても検討してみてもどうか。
- ・小学校1年生を対象に読書カード、読書通帳をクリスマスプレゼントとして配布の検討。
- ・本の読み聞かせサービスを充実させる。
(保育園、幼稚園、小学校、老人ホーム、病院等)
- ・親しみやすい図書館となるように、建設中の(仮称)図書館のロゴマークの作成。
- ・中心市街地の図書館を利用しづらい遠隔地の子どもや高齢者等へのサービスとして、移動図書館導入も検討すべきでは。
- ・図書館情報館等を中心にした子育て、起業支援・相談事業の充実
 - 1) 子育て支援⇒相談員の十分な適正配置と相談事業の充実
 - 2) 起業支援⇒3Dプリンター等の適正な配置と相談能力の向上
- ・図書館、公民館にジグソーパズルの設置。
- ・近隣市の図書館と図書館カードの広域連携を検討してみてもどうか。

11、ネウボラ

【大型ショッピングセンターのテナント】



【2階部分にネウボラ】



【1階には店舗】



11、ネウボラー1

【8つの相談室】



【明るくきれいな相談室内】



【ネウボラ保健師から説明】



【待合室】



11、ネウボラー2

【母親手当】育児パッケージか140ユーロ(約1万8200円)の現金手当とどちらかを選ぶことができる。

【約50点ほどの赤ちゃん用品】



12、ネウボラ体験意見交換



フィンランド在住：藤井ニエメラみどりさん夫妻

藤井ニエメラみどり

1976年生まれ。教育学修士。フィンランドのタンペレ市に家族で住む。2002年千葉大学大学院教育学研究科修士課程修了。大学院では、「フィンランドで在外育児を営む日本人女性が直面する問題」について、フィールドワークを中心とした研究にとりくむ。現在、タンペレ市母語教育教員(日本語担当)、ヘルシンキ日本語補習校講師、教育視察コーディネート・ガイド業など



ワークライフマネジメント誌



藤井夫妻ご家族

	1 ヶ月 4 週	4 ヶ月 6 週	2 ヶ月	3 ヶ月	4 ヶ月	5 ヶ月	6 ヶ月	8 ヶ月	1 年 0 ヶ月	1 歳	1 年 8 ヶ月	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳
定期健診																
総合健診																
保健師の検診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
医師の健診		○			○			○			○			○		
歯科健診												○	○		○	

Chacun(シャカン) Vol. 9号掲載記事より引用

12、ネウボラ体験意見交換－1

フィンランド/子ども手当	日本/児童手当(子ども手当)
満17歳になるまで(所得制限なし)	中学卒業まで(所得制限あり)
第1子 100.0ユーロ(約13,000円)	0歳～3歳未満 10,000円
第2子 100.5ユーロ(約14,400円)	3歳～小学校終了前 10,000円(第1子・第2子)
第3子 141.0ユーロ(約18,300円)	15,000円(第3子以降)
第4子 161.5ユーロ(約21,000円)	中学生 10,000円
第5子 182.0ユーロ(約23,600円)	所得制限世帯 5,000円
双子の場合は支給額は3倍、三つ子の場合は6倍に増える	(約960万円以上)
資料出所:子どもと家族にやさしい社会フィンランドより引用し日本の児童手当修正 1ユーロ=130円で換算	

	フィンランド (タンペレ市)	安城市
人口	213,344	184,780
出生数	2,560	1,920
面積	—	86.05km ²
拠点数	25	1
保健師数	72	10

※人口…タンペレ市:2012年末現在、安城市:H26.10.1現在

子育て支援ネウボラの振り返り(まとめ)

- ・フィンランドでは、母親が赤ちゃんを産み育てるために必要な物資的、心理的支援を行い、すべての子どもを安心して育てられる環境整備に努めている。
- ・妊娠期から6歳児になるまで一貫して同じ保健師が担当し、時間をかけて相談、アドバイスを行う制度は信頼感、安心感も生まれ安城市の子育て支援にも有効策であると強く感じた。
- ・親が有給で仕事を休むことができる出産休業制度が充実し、その子育て環境に合わせた選択肢も多くある。
- ・子ども手当も手厚く支給され、子どもの数(負担増)に応じた累進的な手当支給がされており、安城市でも参考にすべきと考える。

子育て支援ネウボラの振り返り(提言)

消費税の税率など社会制度の違いを考慮の上で次の提言をします。

■安城版ネウボラ制度導入検討

- ・安城版育児パッケージの検討
(例:紙おむつ専用のごみ袋の無償配布等)
- ・0歳児や1歳児の子育ての支援・補助の充実
- ・父親の育児参加促進(環境整備)
- ・公共施設を建てずに、集客性のある大型スーパーの利活用の検討。
- ・安城市は第三子以降の子どもの給食費の無料化を検討しているが、更に手厚く双子や三つ子にも同様の補助を検討していただきたい
- ・2013年8月7日から、4か月検診受診者を対象に行っている安城版ブックスタートは今後も継続すべき。

13、Leinola保育園(紹介)



【閑静な住宅街に】



【広い遊び場】



【ヨウン レフティネル園長】



13、Leinola保育園－1（紹介）



6歳児のほとんどが、プレスクール(就学前の6歳児を対象とした)に通っている。

14、児童クラブ(紹介)



15、タンペレ応用科学大学(紹介)



【リトバ ハベリ氏】



【授業風景】



【歯医者の実習室】



【高齢者体験】



【実習器材】



【授業風景】



【授業風景】

実践に即した教材・器材を使用し学べる。
日本の大学とも学術交流協定を締結。

16、ヘルシンキ大学中央図書館(紹介)



図書館とは思えないオシャレな開放的な空間

17、在フィンランド日本国大使館（紹介）



18、タンペレ市庁舎（紹介）



19、フィンランドでは女性が活躍(紹介)



ヘルシンキ市中央図書館
副館長: アンナ マリア ソニンバーラ氏



(左) タンペレ市副市長: レーナ コスチアイネン氏



ヘルシンキ市 児童クラブ



タンペレ市中央図書館
主任: マーリト ヘレン氏



タンペレ市 ネウボラ



タンペレ応用科学大学
(左) 国際関係学マネージャー リトバ ハベリ氏
(右) 通訳: 佐藤さん



一般財団法人自治体国際化協会ロンドン事務所 田村さん